

東京都中野区・杉並区での感染対策の地域ネットワーク 「中野・杉並感染管理ネットワーク」

藤井 奨 医療法人財団 荻窪病院 感染管理室 室長

ないものは、つくる

荻窪病院は、東京都杉並区にある一般病床252床の中小規模病院である。杉並区は23区の西の端にある人口56万人をかかえる区である。区内に大学付属病院も都立病院もない。杉並区は人口10万人あたり一般病床247床(2011年)であり、全国平均704床(2011年)と比較すると病床数は少なく、慢性的にベッド不足の区である。新宿区(一般病床1952床、2011年)まで10kmと近いが感染症のアウトブレイクが起これば、病院経営を脅かすだけでなく、地域医療の破綻をきたす危機感があった。

2011年、都内の大学付属病院におけるアシネトバクター・バウマニのアウトブレイクを契機に、ICD協議会で感染対策の病院連携が勧められた。しかし、当時、中野区にも杉並区にも感染症専門医が不在で、感染対策の地域ネットワークはなかった。そこで東京警察病院・河北総合病院・荻窪病院が中心となり、2012年に中野・杉並感染管理ネットワークが創設された。現在、感染防止対策加算1(加算1)の病院5施設を中心に、合計22病院が参加し、所轄保健所にも認められたネットワークとなっている。中野・杉並感染管理ネットワークは、中小規模病院が集まってできたボトムアップ型の地域ネットワークであり、その活動の中心は、加算1施設に在籍する感染制御医(ICD)と感染管理認定看護師(CNIC)である点が特徴である。

中野・杉並感染管理ネットワークの活動

活動目的を病院感染管理の向上とし、その活動として①勉強会、②感染対策指標の集計、③相談・アンケート調査、④訪問ラウンド、⑤アウトブレイク支援を行っている。

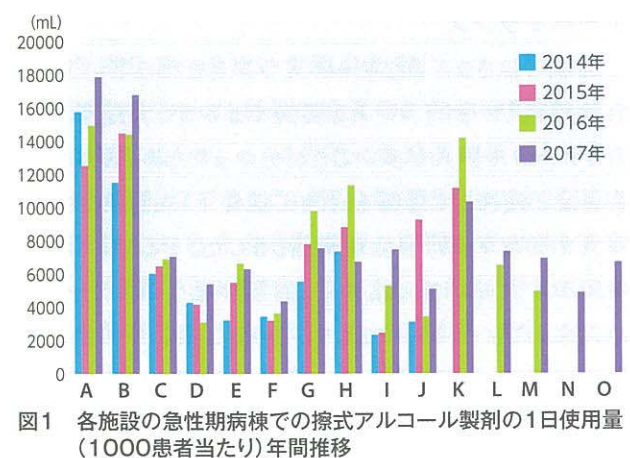
勉強会は使えるものを

勉強会は年間4回開催している。これまでに手指衛生、抗菌薬適正使用、結核予防対策、環境整備、職業感染、サーベイランスなどテーマを決めて各施設の感染対策を発表してきた。各施設の規模がよく似ているため、明日か

ら使える勉強会となっている。また、ネットワーク内のICDやCNICに負担がかからないように年間2回は外部講師(感染症専門医)を招請し最新の感染対策を教えていただいている。

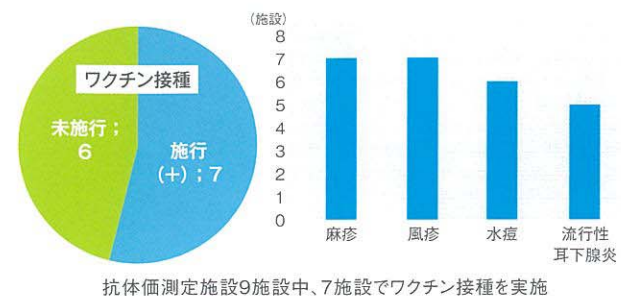
感染対策指標は見える化し、分析する

各施設は抗菌薬使用密度(AUD)、アルコール製剤の使用量(1日1000患者当たり)、耐性菌検出件数、アンチバイオグラムを報告し、病院名を公開する形式で棒グラフ化して共有情報としている。報告された指標は、隣の施設が見える化した情報とすることで比較検討ができる。隣の施設のアルコール使用量を各施設の幹部が知ることによって、多くの施設でアルコール使用量は年々増加している(図1)、カルバペネム系抗菌薬のAUDは年々減少している。また、9施設のアンチバイオグラムを再計算し、ネットワークアンチバイオグラムを作成し公開している。大腸菌のニューキノロン耐性率や基質特異性拡張型βラクタマーゼ(ESBL)産生率を、培養検査検体提出が少ない施設に参考にもらえるようにしている。



アンケートは、各施設の改善のために

これまで手指衛生、結核対策、流行性ウイルス疾患のワクチン、シングルユースデバイス、サーベイランスなどをテーマにアンケートを行い、結果は勉強会で報告している。近隣施設の流行性ウイルス疾患の抗体価調査や



抗体価測定施設9施設中、7施設でワクチン接種を実施

ワクチン接種状況のアンケート結果は、自施設の改善に役立ててもらっている(図2)。

訪問ラウンドは施設間の信頼関係を強める

主に加算1の施設が他施設のラウンドを行っている。CNICが改善の仕方を提案・指導し、感染対策の向上を目指している。訪問ラウンドを受けた病院の満足度は高く、働きやすい環境になったと好評である。訪問ラウンド終了時に検討会を行い、提出された感染対策指標を確認し、手指衛生遵守の向上方法や抗菌薬の適正使用について意見交換を行っている(図3)。



図3 訪問ラウンドと検討会

信頼関係があればアウトブレイク支援も進めやすい

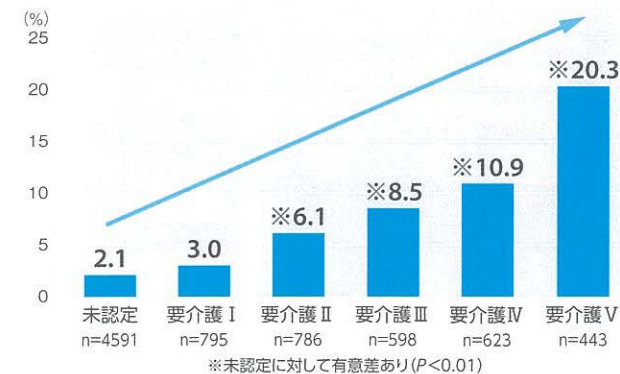
アウトブレイクが発生した時には、事務局に報告してもらっている。すぐにCNICとICDが施設に向かい、当事者施設と相談しながら、感染対策から終息宣言まで見守る体制としている。この体制は保健所にも好意的に認められており、当事者施設が事務局に報告しやすい環境となっている。

介護施設では

介護施設も、感染対策で困っている

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)鼻腔保菌率は介護度が高くなるほど高くなる(図4)。ESBL産生菌などの耐性菌対策がわからないなど介護施設は感染対策で

困っている。そこで特別養護老人ホーム(特養)と介護老人保健施設(老健)からなる中野・杉並医療と介護の感染予防ネットワークを2017年に創設した。CNICの在籍する5病院が中心となり、特養23施設と老健3施設が参加するネットワークとなっている。活動内容は、①勉強会(集合・出張勉強会)、②相談・アンケート、③訪問ラウンド、④アウトブレイク支援である。



※未認定に対して有意差あり(P<0.01)

介護施設ではインフルエンザとノロウイルスはおさえるべき

勉強会をインフルエンザとノロウイルス対策をテーマに開催した。また、ESBL産生菌対策として排便コントロールとオムツの交換手順について講演会を開催した。

介護施設の訪問ラウンドは役立つ情報を共有する

多くの介護施設を訪問ラウンドして各介護施設の役立つ情報を収集し、介護施設で共有できるようにしている。また、感染対策マニュアルについて介護施設の看護師とCNICが意見交換している。介護士がマニュアルに沿った行動ができるように施設の看護師を支援している。

ボトムアップ型地域ネットワークは共に悩み、共に成長する場である

中野・杉並感染管理ネットワークは、勉強会で加算1のCNICが発表するだけでなく、これまでに感染管理の発表をしたことがない施設にも発表してもらっている。発表した施設は感染管理に自信を持ち、自施設での耐性菌対策を考え、手指衛生の遵守率が上がる施設に変わっていく。ボトムアップ型ネットワークは単なる地域連携ではなく、共に悩み共に成長する場である。今後も中野・杉並感染管理ネットワークは地域の感染対策に貢献できるように活動していきたい。